

最先端研究開発支援プログラム(30 課題)
第 1 回 各研究課題に対する研究費総額決定のための調整会合
議事概要

- 日時: 平成 22 年 2 月 25 日(木)10:45～12:00
- 場所: 合同庁舎 4 号館 7 階 742 会議室
- 出席者: 津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員(途中退席)

○ 議事概要

- (相澤議員) まず直接経費について議論したい。担当議員による書面審査とインタビュー2件を行うというような経過を経た。「各研究課題に対する研究費総額とその理由」という資料に整理している。
- (本庶議員) これも公表資料なのか。
- (二村参事官) 公表資料である。
- (本庶議員) 細かな修正点はもう一度後からまとめて指摘したい。
- (相澤議員) 表現ぶりを含めて、確認をお願いしたい。
- (奥村議員) ヒアリング 2 件の結果の書きぶりが違う。山海先生についてはヒアリングした側の判断が入っているが、白土先生については本人の希望のみでヒアリングした側の判断が入っていない。
- (相澤議員) 結論としては、これだったらできるという判断を行った。
- (奥村議員) 白土先生については、40 億円にすることか。
- (相澤議員) 金額については本人が目安で言っただけであって、我々はそういう判断をしなかった。ここで 40 億円という表現をしなくていいのではないか。
- (本庶議員) 40 億円は資料にでていないのではないか。
- (相澤議員) 別の紙にでている。本人とのインタビューでこういう表明があったが、中身を説明したところ、装置メーカーの日立製作所との交渉がまだありうるということで、何とかできると考えた。
- (奥村議員) きちんと資料を書いていたいただきたいということ。特許権の帰属比率、これは持分比率のことだと思うが、帰属比率も大事だが、実施許諾権はどうなっているのか。持分比率を 1:1 として、実施許諾のときに両方がインデペンデントにできるのか、できないのかが問題である。
- (二村参事官) 実施許諾については両者が合意しなければいけない。日本側も了承しなければいけない。
- (奥村議員) それが常識になっているのか。
- (相澤議員) 契約書に明記されるということなのか。
- (中鉢議員) 拒否権があるということか。
- (二村参事官) そのとおり。
- (相澤議員) 政務官のご意見はございますか。
- (津村政務官) 特にありません。

- (相澤議員) 直接経費は間接経費を見込みながら、全体の1000億に収まるだろうということ。直接経費についてよろしければ、間接経費を議論したい。
- (相澤議員) 再提出の段階では、間接経費は直接経費に対して上限20%の範囲で申請している。申請内容をそのまま認めるかが1点。そうであっても、支援機関が複数の研究課題を扱うとすれば、すこし経済効果がでるようなかたちにできるのではないか。もう少し全体として削減すべきでないか、これが第一。まずこの点を議論したい。
- (今榮議員) 資料では5つの研究課題を担当する研究支援担当機関しか載っていないが、それ以下のところはあるのか。
- (二村参事官) その次は2つを担当する機関になるため、上位のみ記載した。
- (相澤議員) 研究課題数が5である上位2つの機関だけ議論すればよいのではないか。最初は5件どころでないと考えていたが、JSTにもいったので、どちらも5件かかえることになった。
- (本庶議員) JSTの5件は、間接経費がJSTに最終的にいくのか。その他にいくのか。
- (二村参事官) JSTについては、実験の場合は、JSTでなくそれぞれの大学になると思われる。
- (相澤議員) JSTに実験の場合は無いだろう。
- (藤田統括官) JSTは東大のほか、東京女子医大、島津、日立の支援機関になっている。
- (相澤議員) 東大とJSTでは状況がちがう。JSTではこれ以上削減しなくていいのでは。JSTについてはOKとして、東大についてはどうか。
- (白石議員) 印象としてしっくりとはこない。研究費用がこれだけ削られているのに対し、自動的に20%というのは。
- (本庶議員) 理研の1つのセンターの全部の年間のオペレーションがこれぐらい、30億円ぐらい。だからこれはすごい金額である。
- (藤田統括官) これは5年間の金額である。
- (白石議員) 政策大学院大学の年間予算に相当する金額である。
- (奥村議員) どれだけ削減するかにもよるのではないか。後出しジャンケンのような議論になっている。後出しジャンケンでやるなら相当減らすのか。1割減らすのか、半額減らすのか。いずれにせよ、時間が遅れるのが一番問題であり、スピードを大事にすべきである。
- (本庶議員) 後出しジャンケンといえば、全部後出しジャンケンである。
- (相澤議員) 間接経費を申請額どおり認めるか、色んな理由で削減するのは、必ずしも後出しにはあたらない。東大についてはある程度削減してOKでないか。ならば、どの程度か、この場で決めたい。事務局に確認するが、先ほどの直接経費の金額にもとづけば20%上限という条件は満足されているのか。
- (二村参事官) 条件は満たされている。
- (相澤議員) 直接経費との比率に基づけば、申請時の割合に応じた間接経費は認めてよい範囲である。原則として申請割合のとおりで認めてよいのではないか。多数の研究課題を支援する研究支援担当機関の間接経費についての「東京大学」に戻って、どの程度削減すべきか。
- (本庶議員) 永井先生だけは15.6%になっているので、他も15.6%でやれるのではないか。

- (藤田統括官) それは分からないが、そのところは本当は厳しいのかもしれない。15.6%で決め打ちできるかは分からない。
- (本庶議員) 何かの理屈をつけて削減するしかない。
- (相澤議員) 各中心研究者に間接経費の結果はフィードバックされるのか。
- (二村参事官) 総合科学技術会議の意見具申では、個別の額がフィードバックされる。
- (相澤議員) 永井先生だけが申請割合の通りとなるが、15.6%近辺が目安となる程度か。
- (藤田統括官) 4分の1減らすとすれば、東大として20億円ぐらいになるか。JSTは後ろに東大、日立、島津があるとはいえ、東大のみを下げることへの懸念がある。
- (相澤議員) 東大の間接経費の申請額合計28.5億円から3.5億円削減して、25億円ではどうか。全く根拠はないが、トータル25億円として、そのパーセントで各研究者に戻す。
- (本庶議員) 全体の間接経費の比率の平均値はいくつか。それより低めで考える。ざっとの計算で15.5%程度にするのはどうか。
- (白石議員) 全体の間接経費の比率の平均値に基づくという考え方でいいと思う。
- (津村政務官) 2件を支援する大学はどうするのか。3件を支援する機関はないのか。
- (二村参事官) 東大、JST以外は2件を支援する機関しかない。
- (相澤議員) 件数が多いと全体のマネジメントの効率化ができるのではないか。2件だとその効率化は難しい。
- (津村政務官) 産業技術総合研究所とNEDOは。
- (藤田統括官) それぞれ2件ずつである。
- (相澤議員) 原則として、B、Cの申請額に基づいて割り振る。東大だけは全体の間接経費の比率の平均値になるように調整することとしたい。
- (相澤議員) 今後の進め方は。日程について事務方から。
- (二村参事官) 来週の調整会議にて、金額とその理由を確定して頂きたいと考えている。
- (相澤議員) 資料については、来週最終決定して、本会議にかけた後に公開する。資料の修正などコメントをいただきたい。

以上